

令和6年度第3回宇治市農業振興協議会 会議録

- 開催日時：令和7年1月28日（火）午後2時～午後2時55分
- 会場：宇治市産業会館 1階多目的ホール
- 出席者：10名（8名欠席）
- 傍聴者：0名
- 報道関係者：1名

<次第>

1. 宇治市地域計画について

過半数の委員の出席により会議が成立

【会議内容】

1. 宇治市地域計画について

事務局（宇治市）より概要を説明

委員による協議、事務局との質疑応答

2. 宇治市の補助制度について

【質疑応答】

1. 宇治市地域計画について

委員：今後もっと地域計画に関心をもってもらえるように協力していきたい。

認定農業者に集積していくのか、新規就農者を増やしていくのか方針は。

事務局：例えば巨椋池では、縮小意向より拡大意向が大きい。市としては新規も大切ではあるが、この地域では地域の担い手に集積していきたい。

委員：異常気象による営農環境維持の厳しさが増している。担い手の営農環境を市と連携して共に整えていきたい。開発の地域については、用水や交通の課題が生じる懸念。農業を続けられるように取り組んでいきたい。

委員：農業の担い手が多くあるのはありがたい。品目で集約していかないと、農薬の飛散などの課題あり。農道の確保できているのか。

事務局：おっしゃる通りエリアを分けるのが効率的で安全。将来的なゴールは品目でエリアを分けていくことだが、入作も多い中難しいのが課題。今後の計画では課題となっているが、現在の計画では基盤整理までは考えていない。

委員：生産家は減っても農地は減ってこなかったが、隣接する農地を担ってきた農家も高齢化してきた。

委員：昭和24年生まれが後期高齢者になって働き手が減っていく。認定農業者も増やしていくことも大事。

事務局：みんながみんな認定を受けられるというわけでもない中で、市としては認定には満たないが市の農業を支えてくださっている方にも使っただけの補助制度も考えていきたい。

委員：計画に集約とあるが、集約は誰がするのか。したい人だけがするのか。

事務局：集約、集積という言葉について、集積は人に集める。集約はエリアをまとめる。効率的な農業が可能になるが、個人の財産なので強制はできない。市としては、農地の動きがあったときに周辺農地の担い手に集積することを想定している。

委員：新規就農を増やすのもいいが、農業に対するモラル、生産者としての人間性も大切ではとっていて、農業の担い手の質も大切。市でそのあたりも見渡せるように。今の時代、農家のコミュニケーションも大事。宇治市にしかできない農業の形態をこれからも考えていって差別化を図っていくのも大切。

事務局：認定農業者の認定には、JAや普及センター等にも意見をもらっているが、人となりまで知ることは難しい部分もある。こういった計画の協議の場によってお互い顔が見えるようになることで、モラルの維持という面も期待できたらと考えている。

委員：認定の関係で補助のもらい方が複雑になっているように思う。今後の流れ、縦覧はどこで行うのか。意見がでたら変更するのか。改良区には、水問題について、もう少し手段を講じてほしいとお願いしたい。

事務局：縦覧は掲示板、HP等によりお知らせして、農林茶業課内で縦覧する。出てきた意見の中で計画に資するものについて変更すべき必要があると判断した場合は変更する。

まとめ：農業振興協議会での変更の意見はなく、12月に提示した資料のまま公告・縦覧にすすめる。

2. 宇治市の補助制度について

農業生産性等向上支援事業、農作物盗難防止に対するカメラ設置に向けた補助事業について案内

以上